

森のおくりもの 12月



キクイタダキ (キクイタダキ科)



イラスト：N. S. (太白区)

いよいよ本格的な冬がやってきます。今年は大震災や台風などいろいろと災害が多い年でありましたが、何とか12月を迎えることができました。新しい年も太白山自然観察の森をよろしくお願いいたします。スタッフ一同お待ちしております。(菊池)

キクイタダキ：ウグイス科に分類されていましたが、最近の遺伝子による分類に従いました。

一番小さいキツツキ 「コゲラ」

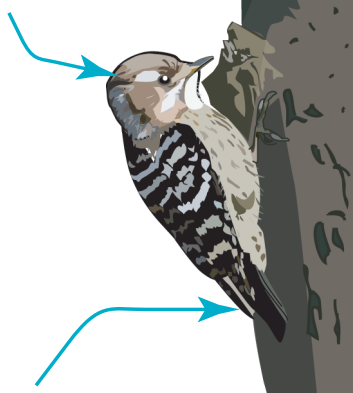
キツツキの名前にケラがつくのは
アカゲラなどが、ケラケラケラと鳴く
ところからついたそうです。

葉が落ちて、少し見通しがよくなった観察の森では、野鳥の姿が見やすくなりました。今回は「キツツキ」の仲間、比較的に見かけやすい「コゲラ」を紹介したいと思います。

一番小さいキツツキ

コゲラ

ここにピチッと赤い部分があるとオス



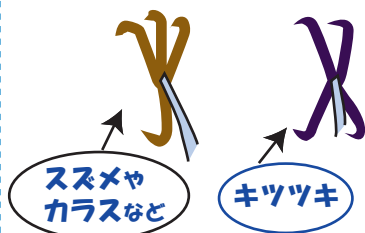
キツツキは両足と尾羽を使って3点で木の幹に垂直に止まることができます。

大きさは雀くらいです。朽木や枯木の中にある甲虫の幼虫なども食べますが、センター前の花壇にあるヤマウルシの実も食べていましたよ。また、枯木などに毎年新しい巣を作ります。（枯れている木も大切なんですね。）コゲラはつがいや家族でいることが多く、お互いの確認をするために「ギーギー」と鳴き、巣だったヒナ等が餌をねだるときや、遠くにいる相手と呼ぶ時などは「キッキッキ」という強い声を出すようです。一瞬モズかと思うような声です。つがいの絆が強く、1年中朝から晩まで一緒にいて、（離れ離れになるのは抱卵や育雛の期間とねぐらに入る時ぐらい）片方が死ぬまで続くことが多いそうです。

観察の森でみられるキツツキは、コゲラの他にアカゲラやアオゲラがいます。



あしの特徴



木の幹にしっかりつかまるために趾（あしゆび）が前2本、後2本と向いあつてついている。

混群にも注目！

エナガやヤマガラなどの混群に混じっていることがあります。ギーっという鳴き声や木の幹に止まるシルエットは特徴がありますので、すぐそれとわかるでしょう。混群に混じるキツツキはコゲラだけです。囲まれたら探してみましよう。

【レンジャー：黒川 周子】

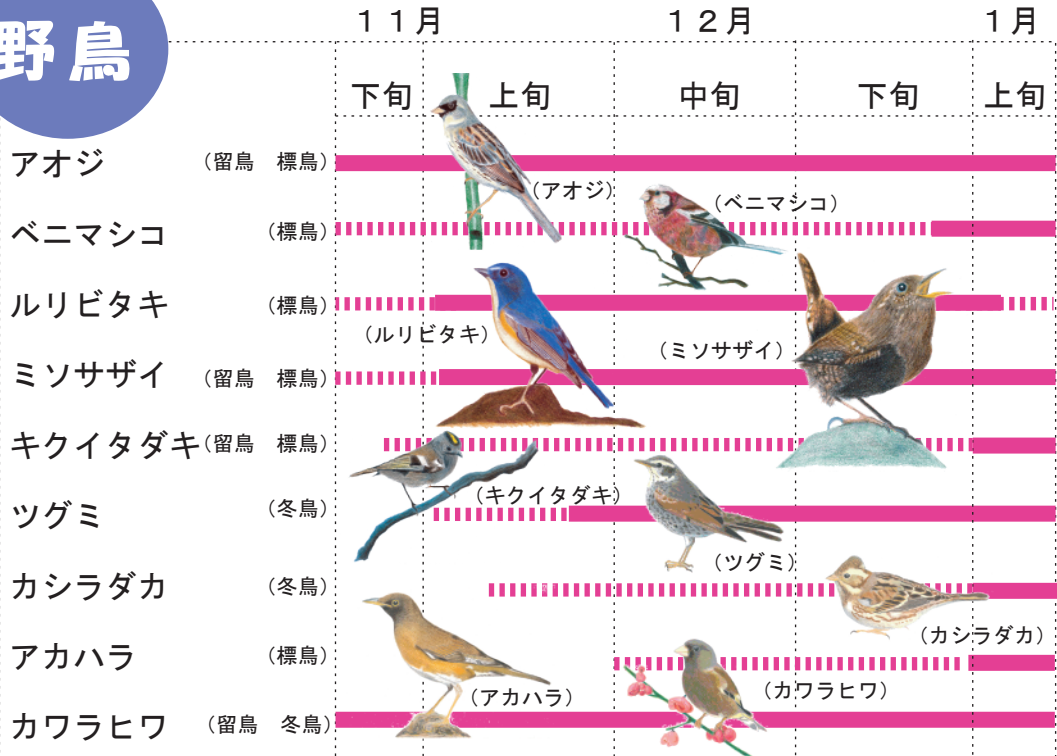
*混群・・・冬の間、数種類の鳥が一緒になって集団で行動する習性があり、その違った種類の鳥が入り混じった群れのこと

12月に観察センターで 見ることができる野鳥たち

今年の紅葉は暑さが後半まで残ったせい、今ひとつで『すごく綺麗！！』とまでは言えない感じでした。それでもハウチワカエデやマンサクなど綺麗に色づき目を楽しませてくれるものもありました。紅葉が終わるともう何にも見るものがなくなってしまうのでは？と心配されてる人もいるかもしれませんがこれからは『バードウォッチング』には最高の季節なんです。なぜかと言うと夏の間は木々の葉っぱが生い茂り姿を見ることが出来なかった小鳥たちも葉っぱが落ち、明るくなった森ではすごく見つけやすくなるんです。少しでも野鳥に興味のある人はこの機会に野鳥観察をはじめてみてはいかがでしょうか？センターでは無料で双眼鏡の貸出もしていますし、使い方がわからなければ気軽にレンジャーに声をかけて下さい。やさしく教えますよ！それから12月から3月にかけてセンター裏に『バードテーブル』を設置します。研修室からゆっくりと小鳥たちをみる事が出来ますので是非遊びに来て下さい。

【レンジャー： 齋 正宏】

野鳥



※ 冬鳥（渡り鳥）とはシベリアから日本へというように比較的大きい移動をする鳥のことをいいます。それに対して標鳥（ひょうちょう）とは山地から平地へと比較的小さい距離の移動をします。また子育てから冬越しまで場所を変えないで過ごす鳥を留鳥（りゅうちょう）といいます。

みんなで自然観察

イベント報告 鉤取山
ネイチャーウォーキング

11月26日は、森林インストラクターの太田さんに講師をお願いし、鉤取山国有林で自然観察をしました。太田さんは鳥屋なので、視界の利かない林内でも、鳴き声だけでどんな鳥が来ているのか知ることができます。そのことに、みんなはとても感心していました。



エナガ



点々と…
うけたかな？

おおた よしあつ
太田 吉厚 氏

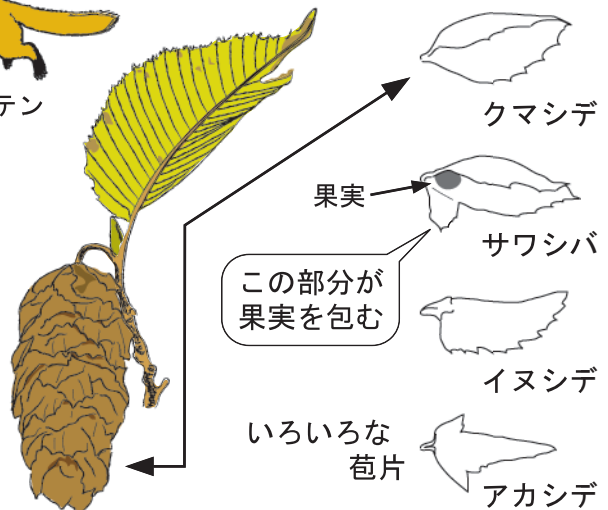


テン

エナガの群れの絆は強いので、調査のため一羽捕まえると、群れ全体が捕まるんです。標識した後放すのですが、最初に放したやつは、全部が解放されるまで待ってるんです。

テンの糞の中身を調べるのはワクワクしますね。ここはテンが多いみたいで、テンだけに、糞が点々とありましたね(笑)。

観察会では、鉤取山を象徴するモミ林の成立する条件やモミの寿命の話、似ている葉（モミとカヤとイヌガヤ、ブナとイヌブナ、クリとクヌギ）の区別点など、詳しく解説してくれました。大人たちは樹木の解説に興味津々のようでしたが、ちびっ子たちはヌスビトハギの実を見つけ、ひつつき虫合戦に夢中になっていました。帰り道で見たミノムシのようなシデの果穂も印象的でした。



シデの仲間（カバノキ科クマシデ属）似たような果穂でも、苞片の形が異なる。

【レンジャー：林 義雄】

鳥屋：鳥の専門家という意味で、鳥を売っているわけではありません。

ひつつき虫合戦：付着性の種子（ひつつき虫）を投げて相手の服にくっつける遊び。

今年もいよいよ大詰めに そして新しい年に



今年も、東日本大震災をはじめとして台風や洪水などの大きな災害が続いた年でありました。しかし、そんな年もこの12月で終わろうとしております。

さて、太白山自然観察の森は本格的な冬の装いとなり、これに合わせ観察センターもいろいろと冬の体制に組み替えているところであります。展示はもちろんのこと、バードテーブルの設置や日曜ガイドウォークの午前中のみの実施など冬シーズンにあわせた組み替えを行っております。また、森の中ではフィールドサインの観察、冬鳥の観察、冬芽の観察などに適した季節となっております。

とはいえ、冬の森は草花や虫たちを観察することができなくなることから、当センターのレンジャー泣かせの季節でもあります。しかしその反面、木の葉が落ち、これまで見えなかった太白山が散策路のあちらこちらから見えるようになり、これが時として新鮮さを感じさせることさえあります。また、積雪後の晴れた日には、雪景色の散策路や太白山のビューポイントも発見できるかもしれません。そんなビューポイントの情報交換ができるのも冬ならではの楽しみではないでしょうか。

私は、当センターに勤務して初めての冬でありますので、観察の森の冬景色の見どころはまだわかりませんが、できるだけリサーチに努め紹介してみたいと考えております。これからの積雪が待ち遠しくワクワクしております。さらに、冬の太白山自然観察の森の楽しみ方をいろいろ探索し、多くの提案ができればと考えております。そして、多くの皆様が自然の中で癒され、やすらいでいただければと切望する次第であります。

今年もまた、太白山自然観察の森へはたくさんの方々においでいただきありがとうございました。また、新しい年は平穏でありますよう祈りつつ、今年以上のご利用をいただけますようお願い申し上げます。

【館長：菊池正行】

12月の催し



申 し込み⇒ 6日9時から電話で受付

12/10 (土)

13:30~15:00

太白山自然観察の森 開園20周年記念講演会

『太白山いまむかし』

申 【定員】20名

開園20周年を記念し、自然観察の森の移り変わりと自然保護について環境省の方と元自然観察センター館長よりお話していただきます。

12/17 (土)

7:00~8:30

『おはよう野鳥かんさつ』

冬の森を歩きながら、野鳥を観察します。

* 申し込みの必要はありません。
センター前にお集まりください。

20周年記念写真展

太白山いまむかし

は12/11(日)まで!

展示室にて公開中

(日)曜
は

『ガイドウォーク』の日!

12月のテーマは『落ち葉を踏みしめて』です

4日, 11日, 18日, 25日

10:00~11:30

* 申し込みの必要はありません。
センター前にお集まりください。

* 今月から3月まで午前のみガイドです。

休館日

5日, 12日, 19日, 26日、

年末年始

12月28日(水)~1月4日(水)

♪森へおいでください♪



宮城交通バス

仙台駅前バスプール7番 または 長町駅前から
山田自由ヶ丘車庫 行きに乗り
公営アパート前 で下車、徒歩15分でセンター



車

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター



定期購読のお知らせ

住所・氏名・電話番号と、何月号から希望かを明記のうえ、80円切手12枚を同封して、自然観察センターまでお申し込みください。

2011年12月号(毎月1回5日発行)

発行:(財)仙台市公園緑地協会

編集:仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

*「社のひろば」のURLにカラーで「森のおくりもの」が載っています。→ <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>